

縄跳びチャンピオン大会を行いました

昨年はインフルエンザの流行で延期しましたが、今年は無事に予定通り開催できました。1月当初から練習に励み、3種目でその成果を発表しました。

- ① 1年生から6年生までの縦割り班による長縄8の字跳び
- ② 3種目の中から自分で1種目を選ぶ短縄跳び
(二重跳び、交差跳びなど)
- ③ 学年全体で披露する学年発表
(学年一斉に跳んだり、代表が技を披露したり)

縦割り班による長縄8の字跳びは、上級生が小さい子の面倒をみたり、縄に入るタイミングを教えたりと、心温まる姿がとても微笑ましくなりました。そしてどの子も一生懸命に跳ぶ様子は、「真剣に取り組む」「あきらめずにがんばる」ことの素晴らしさを、見ている全員が実感できる大会となりました。

この学校だよりは、原則として月1回、各区長さん・町内会長さん方のご協力により、地区回覧板を通じて地域の皆様にご覧いただいています。



～1/24 鹿島方面～

5年生社会科見学

～2/2 東京方面～

1/24(火)生活と工業の関連で見学に行きました。栽培漁業センターでは、ヒラメやアワビの育て方などを学び生けすにいる、ヒラメやネコザメ、ナマコなどの実物を素手で触って観察をしました。製鉄所では、原料や鉄のでき方について学び、広い工場内をバスに乗って見学をしました。



11月、雪のために行けなかった見学ですが、市バスや見学先の日程調整ができ、実現しました。午前中はNHKスタジオパークへ。アフレコやニュースの画面合成体験など、テレビの制作の様子を感じることができました。午後は科学技術館へ。5階ある展示室は見切れないほど。モーターや電気、エネルギー、光やシャボン玉など、見て・触ると、科学の不思議さに今まで以上に引きつけられました。



家庭教育学級・閉級式～2/1～

最終回となる今回、親子ケーキ作りに取り組みました。上にのせる果物などの材料を工夫し、とてもきれいで美味しそうなケーキができました。おうちの方と一緒に作る子供たちの笑顔が印象的でした。

その後閉級式を行い、今年度の活動を閉じました。



3年生サンライズプラン冬の交流会 ～2/9～

水田の生き物調査を通して、農産物と自然環境との関係や大切さについて学ぶサンライズプランも、最終回。今年は3回すべて天候に恵まれて水田での調査ができました。干潟公民館を会場に、調べて分かったことを絵にしたり、クイズにしたりと、とても分かりやすく、元気に発表してきました。



☆前号に続き、作文の優秀作品を紹介します。

毎年、社会福祉に対する意識を高めることを目的に、旭市社会福祉協議会主催の社会福祉大会が開催されています。その中で、小・中学生対象に作文の募集と表彰が行われています。豊畑小から出品した作文のうち、5年生1名が小学生の部の優秀賞に選ばれました。11月19日東総文化会館で開催された大会では、大ホールの壇上で立派な態度で表彰式に参加しました。

平成28年度 旭市社会福祉作文 優秀賞

『小さな助けから大きな力へ』

5年 高坂 咲希 さん

私は去年、左うでの骨にひびが入り三週間ギプスをつけて過ごしました。手を洗うのも大変でお風呂に入るときは毎日家族にかみや体を洗ってもらいました。私の場合は三週間だけでしたが、うでや足に障害がある人やお年寄りには常に不自由な生活をしています。健康な人であれば簡単にできることでも倍の時間がかかることや、人の手を借りないと出来ないこと、あきらめてしまうことも多いと思います。でも、普通の人と同じような生活をしたい気持ちは皆持っているはず。だからこそ、助け合いながら生活していくことが必要です。

では、どうしたら助け合うことが出来るのでしょうか。私に一番身近だったのは高齢者の九十四さいだったそう祖父母です。特にそう祖母は認知症があったので場所がわからなくなったり、物の場所を忘れてしまうので教えてあげたりしました。難しいことは出来ませんでした。私にも出来た手助けでした。

また、これから私にも出来る手助けはあるか考えました。足が不自由な人は車いすやつえを使わないと歩けないので段差がある所を教えてあげたり、小さな段差を乗り越えるのに手を貸すことならできるのではないかと思います。でも、今まではそういう場面を見かけても恥ずかしくて声をかけることが出来ませんでした。これからは社会福祉の心を持って恥ずかしがらずに手を貸す勇気を持ちたいです。

次に、社会福祉について調べたときに知ったのは、支援には税金や寄付金が使われているということです。障害のある人には点字ブロックの設置や働かなくても働けない場合には、生活するための費用を用意します。また、高齢者が家でヘルパーにお風呂に入れてもらったり、ベッドを借りるにも税金が使われるそうです。特別に募金をすることも大事ですが、働ける人が働いてきちんと税金を払うことも大切な支援につながるということがわかりました。

今回、作文を書くにあたり、旭市を見渡して考えるとバリアフリーや点字ブロックが都会に比べて少ないと感じます。やはり都会に比べると人口が少ないため障害者の割合も少ないためだと思います。しかし、人数に関係なく困っている人がいるのは変わりません。平等な生活を送るためにも増やしてもらえることを願います。

小学生の私達にも出来ることはたくさんあります。まずは、社会福祉について学び考えていくことから始まります。そこから、考えたことを行動に移して皆が協力して手助けが出来るようになると小さな助けが大きな力になっていくと思います。周りを見渡し、困っている人に手を貸すことを明日から始めていきます。

人を差別するような子にはなってほしくない。

親は、子供がいじめに加わったり、他人を差別し傷つけていることに気付いたときには、それが人間として恥ずかしい行いであることを教える責任があります。その際、理屈であれこれ言うより、子供を愛していること、素敵な人に育ってほしいこと、弱い者をいじめたり差別したりするのを見てショックだったこと、人が傷つくのを喜ぶことに怒りを感じたこと、二度としてほしくないこと、など親としてのほんとうの気持ちを伝える努力をしましょう。親自身が偏見をもたず、差別をしない、許さないということを、子供に示していくことが大切です。 (「家庭教育手帳」より)